

ご報告



あの日をわすれない。
3・11に集い、祈り、学ぶ。

東日本大震災鎮魂 コンサートvol.4

—あれから6年命の絆今ふたたび—

2017年3月11日に、当財団主催の「東日本大震災鎮魂コンサートvol.4」が、パシモンホール小ホールを満席にして開催されました。

14時46分、地震発生の時間に合わせて全員で黙祷を捧げた後、第一部では宝井琴柑さんによる講演「エルトゥール号の遭難」山田寅次郎の足跡」が語られました。1890年に、トルコの軍艦エルトゥール号が台風のため、和歌山県沖で500名以上の犠牲者を出して遭難した時の話です。第二部では、公募で募った70



名の合唱団が半年かけて練習に励んで舞台上に立ち、フォーレ作曲「レクイエム」およびモーツァルト作曲「アヴェ・ヴェルム・コルプス」を歌いました。本コンサートの初回から指揮



指揮：糸原裕介さん



講演：宝井琴柑さん



ソプラノ独唱：松本直子さん



バリトン独唱：大元和憲さん

なお、チケット収入は被災地に役立てていただくよう、青木英二目黒区長に届けられました。

2016年度 南開大学・天津大学 奨学金授与式開催

2017年3月14日、中国天津にある南開大学および天津大学において奨学金授与式が行われました。中国での奨学金制度発足以来、南開大学は18年、天津大学は14年を迎え、奨学生の累計は、2校合わせて382名となりました。



南開大学：奨学金授与式会場風景



天津大学：奨学生と関係者の皆さん

当日は南開大学 白云龙先生、天津大学 馬徳剛先生出席のもと、両校とも天津スタンレー電気株式会社藤井雅之総経理より、奨学生各10名に5千円の奨学金が授与されました。

2017年度 財団奨学生決定

今年度の財団奨学生が決定しました。たくさん応募の中から、科目等履修奨学生15名、放送大学大学院修士全科履修奨学生10名が選ばれました。今後の成果に期待します。

科目等履修奨学生

氏名(年齢)	履修大学
秋山 和江(63)	山梨英和大学
阿部 涼子(27)	立命館大学
出井 陽子(34)	自治医科大学大学院
小山 文彦(65)	龍谷大学
嘉澤 剛(33)	京都大学
熊田 小百合(22)	明治大学
齋藤 育代(65)	立正大学
齋藤 紀末恵(24)	慶應義塾大学大学院
佐々木 友香(24)	東北福祉大学
柴崎 義雄(68)	立正大学
清水 優美(23)	国立音楽大学
張 依明(23)	早稲田大学
藤原 聖史(38)	早稲田大学大学院
行澤 雅代(22)	國學院大学
渡邊 ゆう(30)	東京藝術大学

放送大学選科履修奨学生

氏名(年齢)	氏名(年齢)
今井 菜子(40)	中嶋 寛子(40)
奥田 幾久子(50)	藤田 淳子(46)
鹿野 弘子(46)	藤原 真理(51)

お知らせ



デジタル一眼レフカメラ入門

デジタル一眼レフカメラの入門講座です。講義・撮影実習・講評・懇親会など盛りだくさんな内容で、作品展を後日開催します。

日程 8月29日(火)～30日(水)
会場 スタンレー
サバーバンオフィス
サーフサイド(鎌倉)他
定員 20名

美術研修(その55) 山陰の美術館を訪ねて

鳥根県立美術館、足立美術館、植田正治写真美術館を訪れます。
日程 9月20日(水)～21日(木)
定員 40名

表紙ギャラリー

当財団の使命は、一生学び続ける人を応援することです。学ぶ人が、今日よりも明日、一歩でもよくなるよう努力するには、目標が必要だと思います。そこで、世のため、人のために偉業を成し遂げた偉人を目標に掲げたいと考え、財団機関誌の表紙に登場いただくことにしました。

岡倉天心 (1863～1913)

天心は、父親が越前藩出資の商館「石川屋」の支配人であった頃、横浜で生まれました。もともとが武家の出であったため、漢籍を学びましたが、横浜という土地柄、英語塾でも学びました。帝大生の天心は英語が得意だったことから、同大教授フェノロサが日本美術を蒐集するに際し、助手を務めました。古美術調査の経験を積む中、天心は文明開化の時代の波にのまれ、廃仏棄釈により仏像が破壊されるのを憂い、古美術の保護に強い関心を持ちました。その頃、天心とフェノロサの二人は、長い間秘仏としてその姿を拝むことができなかった法隆寺夢殿の救世観音を開扉する機会に恵まれました。天心の古美術保存の精神は、今日の文化財保護の礎になっています。

また、天心は東京美術学校(現東京藝術大学)初代校長、日本美術院創設、ボストン美術館東洋部長に就任するなど、近代日本美術の発展に大きな功績を残しました。日本美術院創設の初期には、横山大観、下村観山、菱田春草、竹内栖鳳らが集い、華々しい活躍をしています。英文での「茶の本」執筆、インドの詩聖タゴールとの親交、オペラ台本「白狐」執筆と、天心の活動は多岐にわたっています。



人生の後半10年、太平洋を望む茨城県五浦から東洋の価値観を世界に発信した天心は、50年の短い生涯を駆け抜けていきました。

こ・ち・ら・編 集 室

今年の歴史研修で訪れた新潟県長岡市栃尾は、豪雪地帯として知られています。四月中旬に現地を訪れたにもかかわらず、あいにくの雨降りに加え、栃尾城本丸近くの山道にはかなりの雪が残っていました。わざわざ遠くから来てくれるのだから、地元観光協会のNさんが、直前に下見して、スコップで積もった雪に道筋をつくっておいでくださいとお蔭で、希望者全員怪我もなく本丸に到達しました。本丸からの見晴らしが良く、往時、敵が攻めてくる様子が一目で見渡せる場所で、若き謙信が采配した姿を思い浮かべることができました。

上杉謙信といえば、「義」の人として有名ですが、義の心が脈々と続いているのでしょうか、我々一行を温かく迎えてくださった地元の方に、感謝の気持ちでいっぱいです。昼食にいただいた栃尾の「おぼらげ」も、おいしかったです。新潟は「米どころ、酒どころ」と言われますが、瀬波の宿泊は越後の人情とこもりに美酒に酔った夜でした。当財団主催の研修会では、日本各地を訪ねますが、現地で知ること、体験することに加え、訪れる人々を出迎えてくださる地元の方との交流も楽しみひとつです。

設立目的

当財団は、スタンレー電気株式会社の創業者北野隆春の私財提供により、生涯教育の振興をはかる目的で1975年6月23日、文部省(現文部科学省)の認可を得て発足しました。当財団は、いつでもどこでもだれでも学べる体制をつくり、学ぼうとする方々に対し、より豊かな生きがいを持つよう、時代が求める諸事業を展開してまいります。

生涯教育だより

第114号

2017年7月10日発行
編集人 市橋 淳平
発行人 北野 重子
発行所 公益財団法人
北野生涯教育振興会
〒153-0053
東京都目黒区五本木
1丁目12番16号
電話 東京 03 (3711) 1111